平戸小 学校だより　10 月号

平　戸

令和５年９月 29 日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町 542 番地
TEL　045-821-2329
FAX　045-826-2005

学校 HP が
更新されています。
ぜひご覧ください。
（閲覧数9/28 現在
73542）

「育ちの場数」を減らしていないか

校長　若色　昌孝

登校時間に学区の通学路を歩いて安全見守りをしていると、少し元気なく歩いてくる子と出会いました。「おはよう。どうしたの？」と、私。その子は、少しもじもじしながら、「わすれものしちゃった…」と。何を忘れたのか聞いて、「大丈夫だよ、担任の先生に言ってごらん。言えるかな？」その子は、小さくうなずきました。私は、元気なく歩いていく子どもの背を見ながら、携帯電話を出し、学校に電話をしました。「副校長先生ですか？　〇年〇組の〇〇さんが忘れ物をして困っているので、担任の先生にお伝えください。」

電話を切って、「またしてしまった…。」と自分の行動を振り返り、反省しました。子どもが困らないように、先手を打って学校に連絡をすること、そのこと自体は、子どもの一日をスムーズにスタートさせるかもしれません。しかし、忘れ物をして、自分から担任に伝えるという大切な経験の場を私が奪ってしまったという側面もあります。しかも、私はその子に、「言えるかな？」と聞いて、その子は、小さくうなずいたのに。

学校は、そして社会は、子ども一人ひとりに丁寧に接することを求めています。しかし、それは、反面、子どもの育ちの場数を減らしているという面もあります。私は、そして本校職員も、毎日、様々な場面でこのような葛藤に向き合っています。こうした方がこの子は育つだろうな…、でも、まずはこうしておいてあげようか…、いや…しかし…。

子どもの育ちに向かい合う者は、『優しく、「気の利いたような対応」は、実は、その子の成長のチャンスを奪う「気の利かない」対応にもなりうる』ことを常に心の片隅に留めていたいです。自らの選択が最適であったと過信せず、これでよかったのだろうかと、自省する心をもち、その場その時、より良い選択をしていきたいです。そこが、教育の難しさであり、同時に教育の面白さであると、私は考えています。

地域の方からいただいた「大きな・・・！？」